

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度（和暦）	平成29	年度	②採択期間 （通常A型は5年間、B型は3年間）	3	年間 （1年未満は 切上げ）	③事業の型 （AまたはBを記入）	B	型
④日本側拠点機関名（和文）	九州工業大学							
⑤コーディネーター部局名・ 職名・氏名（和文）	大学院工学研究院・教授・趙 孟佑							
⑥日本側協力機関名（和文）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
該当なし								

⑦参加研究者数内訳 （重複カウントしないこと）	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポストドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者	合計	第三国所属の研究者 （内数）
拠点機関	1	3	2	26		32	
協力機関・協力研究者		1	1			2	2
合計	1	4	3	26	0	34	2

⑧手引2-4記載の参加資格のない者の内訳（適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）		
所属・職	専門分野	研究交流での役割
該当なし		

⑨「第三国所属の研究者」内訳（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）

所属機関所在国・ 所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を 確保する方法
パラグアイ・パラグアイ 宇宙機関・エンジニア	宇宙工学	コンステ運用ネットワーク拠点を中南米地域に拡大することで、日本の裏側に衛星があっても、衛星との通信を行うことができ、衛星データ量が増えるとともに、多様な日本発の衛星ミッションが実施可能になる。	日本側とSkype等のビデオ会議で頻繁に連絡をとりあい、衛星関連の各種国際会議にてFace-to-Faceで打ち合わせを行った。
コスタリカ・コスタリ カ工科大学・講師	宇宙工学	「宇宙教育研究に関する大学間国際協力ネットワーク」(BIRDSネットワーク)を中南米地域に拡大することで、地球規模の課題に対処する衛星プロジェクトや、そのための人材育成プロジェクトの提案などで、日本がイニシアチブをとることが可能になるなど日本にとってのメリットは大きい。	日本側とSkype等のビデオ会議で頻繁に連絡をとりあい、衛星関連の各種国際会議にてFace-to-Faceで打ち合わせを行った。

2. 経費

事業の型 B 型			
①当該年度の本事業による経費の支出			
経費内訳		金額 (単位:円)	備考
研究 交流 経費	国内旅費※1	0	
	外国旅費※1	4,302,784	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	0	
	その他経費	11,140	
	不課税取引・非課税取引 に係る消費税 ※2	357,172	
	計	4,671,096	
業務委託手数料		467,109	研究交流経費の10% (1円未満切捨)。消費税額は内額とする。
合計		5,138,205	

②研究交流経費(総額)の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

他国からの参加者について、直前でキャンセル等が発生し、総額が減少したことによります。

日本 側の 参加 研究 者 による 旅費	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額 (単位:千円)		737		
	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額 (単位:千円)		日本→日本以外の渡航	0	
			日本以外→日本の渡航	0	
日本以外→日本以外の渡航			0		
(単 位: 千 円) ④ (B 型 の み) 研 究 者 の 旅 費 に よ る 総 額	日本または相手国 →日本の渡航	1,463	(単 位: 千 円) 左 記 の う ち、 第 三 国 所 属 の 相 手 国 側 の 総 額	日本または相手国 →日本の渡航	0
	日本又は相手国 →相手国の渡航	2,103		日本又は相手国 →相手国の渡航	0
	日本または相手国 →第三国の渡航	0		日本または相手国 →第三国の渡航	0
	第三国→ 日本の渡航	0		第三国→ 日本の渡航	0
	第三国→ 相手国の渡航	0		第三国→ 相手国の渡航	0
	第三国→ 第三国の渡航	0		第三国→ 第三国の渡航	0

※旅費は、往復の金額で記載すること(例:第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載)。

経由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤ (B型のみ) 中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合 (交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)		
総額 (単位: 千円)	手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明	
234	台湾の成功大学は2017年のBIRDS-1衛星5基の運用から一貫してBIRDS衛星プロジェクトの衛星運用に参加しており、衛星コンステレーション (共通の目的を達成するために軌道上に配置された複数の衛星) の運用ノウハウを有しており、今後、多数の国の地上局が連携して衛星を運用 (ネットワーク運用) していく際にも欠かせないメンバーである。本経費は必要不可欠・最小限のものであり、台湾の参加研究者が来日して、衛星コンステレーションのネットワーク運用を協同で行うのは、日本側拠点機関にとって極めて高い実施効果がある。	
⑥ 相手国マッチングファンド (= 相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費) (単位: 千円、千円未満切捨て)		
全相手国のマッチングファンド総額	相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均
3,600	1	3,600

3. 共同研究・セミナー

事業の型		B 型						○			
①共同研究（適宜、行を加除すること。）			現在の年度に○を付けること→								
共同研究 整理番号	共同研究課題名（和文）	日本側代表者氏名・所属・職名	1年目 実施年度に ○を付ける ↓	2年目 実施年度に ○を付ける ↓	3年目 実施年度に ○を付ける ↓	A型のみ					
						4年目 実施年度に○を 付ける↓	5年目 実施年度に○を 付ける↓				
R 1	キューブサット衛星群によるS&Fに関する研究	趙孟佑・九州工業大学・教授	○	○	○						
共同研究の実施状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引 6-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）											
<p>2021年打ち上げを目指したCubeSatプロジェクト、KITSUNE, が開始され、BIRDSネットワーク参加各国におかれた地上センサからのデータを収集するストア&amp;フォワードミッションを実施することになり、そのための標準データフォーマットを決定した。標準データフォーマットについて、12月に東京で開催したInternational Workshop on Lean Satellite 2019にて発表した。また、KITSUNEミッションにおいて、各国に地上センサターミナルの技術仕様を公開し、各国で製作を開始することになった。KITSUNEミッションはコンステレーションではなく単機の衛星ではあるが、BIRDSネットワークに参加する各国が同じストア&amp;フォワード機器を搭載した衛星をあとでうちあげていけば、継続してミッションを実施可能であり、コンステレーションを逐次構築できるようになっている。このことをBIRDSワークショップにて話しあい、参加各国でKITSUNEに続いてコンステレーションに参加する衛星プロジェクトを立ち上げ、そのための資金獲得を目指そうということになった。また、ストア&amp;フォワード用の地上センサのデモ実験を地上局ワークショップで実施した。</p> <p>多国籍間衛星プロジェクト(BIRDSプロジェクト)の一環として国際宇宙ステーションからBIRDS-3衛星3基が6月に放出され、そのコンステの運用を日本・スリランカ・モンゴル・台湾・タイ・バングラデシュ・ガーナ・ブータン・マレーシア・フィリピンの10ヶ国で行い、コンステ運用の経験を積むと同時に、問題点を明らかにした。衛星からのデータダウンロードは比較的容易に各国とも達成できたが、アップリンクに苦勞し、アンテナ方向の校正や機器の選定が大事であることが明らかになった。これらの教訓は地上局ワークショップを通じて共有した。2018年8月に軌道上放出されたBIRDS-2衛星3基についても運用を継続した。</p> <p>BIRDSプロジェクトの次世代機BIRDS-4衛星3基で実施する予定のS&amp;F実験の準備を進めた。BIRDS-4ではパラグアイとフィリピンとの間でアマチュア無線帯を用いたストア&amp;フォワード実験を行う予定である。フィリピンでは、科学技術省の先端科学技術研究所と連携して地上センサターミナルの開発が進んでいる。また、フィリピンが2020年に独自に打ち上げる予定のMaya-3, Maya-4衛星においても、同じデータフォーマットと通信方式でS&amp;Fミッションを行う予定である。地上局ワークショップにフィリピンから若手研究者が参加し、地上センサターミナルの設計の詳細を持ち帰り、フィリピンでの地上センサターミナルに生かすことになった。パラグアイでは、農家の人命を脅かす伝染病を媒介する害虫の捕獲収集状況についてのデータ収集を行う。日本にいるメンバーと連絡をとりあいながら、パラグアイ側で地上センサターミナルに必要な電子機器を購入し、アンテナ用のタワーも設置された。地上局ワークショップにパラグアイから3名が先方経費で参加し、センサターミナルの技術仕様とデータフォーマットについての詳細な打ち合わせを行った。</p> <p>※ストア&amp;フォワード：僻地等におかれた地上センサで収集したデータを衛星がセンサ上空に達した時に送信し、一旦衛星内にデータを保存する。後ほど、衛星が地上局上空に来た時に、衛星からデータをダウンロードすること</p> <p>※CubeSat:10cmx10cmx10cmを単位として超小型衛星</p> <p>※コンステレーション：共通の目的を達成するために軌道上に配置された複数の衛星</p> <p>※BIRDSネットワーク：正式名称は、「宇宙教育研究に関する大学間国際協力ネットワーク」であるが、BIRDSプロジェクトの関係者が中核となって作られたのでBIRDSネットワークと略している。</p>											

②セミナー（当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。）				
セミナー	セミナー名（和文）	セミナー名（英文）	開催地（国名・都市名・会場）	開催期間（○年○月○日～○年○月○日（○日間））
S 1	日本学術振興会研究拠点形成事業「第4回BIRDSワークショップ」	JSPS Core-to-Core Program "4th BIRDS International Workshop"	バングラデシュ・ ダッカ・Brac大学	2019年11月25日～11月28日 (4日間)
S 2	日本学術振興会研究拠点形成事業「第3回地上局運用ワークショップ」	JSPS Core-to-Core Program "3rd Ground Station Workshop"	日本・北九州・九州 工業大学	2020年1月15日～1月20日 (6日間)

セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引6-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）	
S1	開催国のバングラデシュ以外からは17名（日本x6(コスタリカとパラグアイを含む)、ガーナx1、スーダン1、マレーシアx1、タイx2、台湾x1、モンゴルx1、フィリピンx2、ブータンx1、ネパールx1)が参加した。バングラデシュ側の参加者は、初日はパブリックイベントとして、BRAC大学の学生、教員のみならず、バングラデシュ国内の宇宙関係者に広く開放したために278名（VIPx8、教員x20、学生x180、その他x70)が参加した。2日目以降は、BIRDSネットワーク関係者のみでワークショップを行い、バングラデシュ側からは10名が参加した。 ワークショップ開催にあたっては、ホスト側のBrac大学が会場使用料・参加者の宿泊・エキスカージョン費用等を負担した。 ワークショップの初日は各種基調講演が行われた。2日目以降は、参加各機関の宇宙プログラムについての現状報告に引き続き、BIRDS-1からBIRDS-3の3世代の運用から得られた経験について話しあい、BIRDS-4以降の運用について議論を行った。さらに、S&F CubeSatコンステレーションミッションについて議論を行い、九工大からKITSUNEプロジェクトやそのS&Fミッションの技術詳細を紹介して、それを使って各国がS&Fミッションに参加することについて合意を得た。また、各国が持続的な宇宙プログラムを実施していく上で、S&Fミッションを使った国際協力が重要であることを認識し、KITSUNEに引き続いて、各国がS&Fミッション機器を搭載したCubeSatを順次打ち上げ、コンステレーションを形成していくことを確認した。そのために、各国で資金獲得を行うため、お互いに知恵を出しあうこととなった。会議の最後に、2020にBIRDSワークショップをフィリピンで行うことを確認した。 バングラデシュのBRAC大学は、BIRDS-1から参加しているメンバーであり、BIRDS-1で打ち上げた衛星がバングラデシュで初の衛星である。バングラデシュにて、BIRDSネットワーク参加各国が集って、パブリックイベントを実施したことは、バングラデシュ国内で次の衛星開発に向けての機運を高める絶好の好機となった。また、参加各国間の水平的な協力関係も構築されつつあり、フィリピンとマレーシアが2国間の協力ミッションを始めた報告があるなど、ネットワークが有機的に機能しつつあることがわかった。今後、ワークショップをフィリピンやその他のBIRDSネットワーク国で順次開催し、共同ミッションを積み重ねることで、ネットワークが進化していくことが期待できる。
S2	日本を除く8カ国から10人の若手研究者が参加した(ブータン、フィリピン、ネパール、モンゴル、スーダン、台湾、マレーシア、パラグアイx3名)。日本からは12名が参加した。 BIRDS-3衛星のフライトスペアを使用して、衛星運用のハンズオン研修を行った。また、実際のBIRDS-3衛星の運用を見学し、操作の実態を学んだ。さらに、地上局の設営とアンテナの較正についての研修も行った。2020年に打ち上げ予定のBIRDS-4について、運用のためのソフトウェアについて研修を行った。 S&Fミッションについて、KITSUNEプロジェクトとそこで行われるS&Fミッションの概要が説明され、地上センサターミナルのデモを行うとともに技術仕様について意見交換を行った。また、参加者がグループに分かれ、どのようなデータをどのようにして衛星に転送すべきかについて議論を行い、プレゼンを行った。最後にS&Fミッションのデータフォーマットについて確認が行われた。 衛星運用の経験に乏しい若手の底上げと、ある程度衛星運用を経験してきた若手によるLessons Learnedの共有、今後のS&Fミッションのための技術的詳細の確認、といった成果が得られた。また、若手研究者が1週間を共にし、今後共同で衛星を運用していく上で大事となる人的コネクションを作ることができた。
③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7（7）参照のこと。）	
該当なし	
④当該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引4-4（1）①参照のこと。）	
該当なし	

4. 研究交流状況

事業の型 B 型							
①日本→海外の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除すること。）							
国名（派遣先） 第三国は、国名の後に（第三国）と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1 バングラデシュ	1	1	0	2		4	
2 ネパール				2		2	
計	1	1	0	4	0	6	
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も）満たす旨の事由説明 （適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
該当なし							

②海外→日本の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
国名（派遣元） 第三国は、国名の後に（第三国）と記載すること。	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1 フィリピン			1			1	
2 スーダン			1			1	
3 マレーシア			1			1	
4 ブータン			1			1	
5 台湾				1		1	
6 モンゴル				1		1	
7 ネパール			1			1	
計	0	0	5	2	0	7	
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も）満たす旨の事由説明 （適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）							
該当なし							

③日本以外→日本以外の渡航数（本事業経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
国名（派遣元）	国名（派遣先）	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数（該当の場合のみ） 役職ごとの内訳も（ ）書きで併記のこと。 記入例：4（教授級以上1、大学院生3）
1 バラガイ	バングラデシュ			1			1	
2 コスタリカ	バングラデシュ		1				1	
計		0	1	1	0	0	2	
各渡航について、手引4-4（1）①記載の要件を（B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も）満たす旨の事由説明（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）								
該当なし								

④海外→日本の渡航数（相手国側経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）						
国名（派遣元）	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1 該当なし						0
計	0	0	0	0	0	0

⑤日本→海外の渡航数（相手国側経費による渡航）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）						
国名（派遣先）	教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他	合計
1 該当なし						0
計	0	0	0	0	0	0

5. 交流相手国

事業の型 B 型	
①相手国名(和文)	フィリピン
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: フィリピン大学ディルマン校 英文: University of the Philippines, Diliman	
③コーディネーター所属 部署局・職名・氏名 (英文)	Electrical and Electronics Engineering Institute・Professor・Joel Joseph S. MARCIANO, Jr.
④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	2	9	19	21		51	
協力機関・協力研究者	1					1	
合計	3	9	19	21	0	52	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)						※参考: 日本側研究交流経費 ¥4,671,096	
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位:千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)		
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること								
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	該当なし						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×	該当なし						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×	該当なし						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×	該当なし						
(5)相手国側研究者の研究経費	×	該当なし						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×	該当なし						
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計	0					

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二重間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 B 型	
①相手国名 (和文)	スーダン
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：宇宙航空研究所 英文：Institute of Space Research and Aerospace	
③コーディネーター所属 部署・職名・氏名 (英文)	Head Quarter・Director・Moutaman Mirghani Daffalla ELBASHEER
④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	1		28	1		30	
協力機関・協力研究者			1			1	
合計	1	0	29	1	0	31	
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名 (専門分野)		研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由		
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)					※参考： 日本側研究交流経費 ¥4,671,096	
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること								
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	該当なし						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×	該当なし						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×	該当なし						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×	該当なし						
(5)相手国側研究者の研究経費	×	該当なし						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×	該当なし						
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計		0				

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。



5. 交流相手国

事業の型 B 型	
①相手国名 (和文)	マレーシア
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：マラ工科大学 英文：Universiti Teknologi MARA	
③コーディネーター所属 部署・職名・氏名 (英文)	Faculty of Electrical Engineering · Associate Professor · Mohamad Huzaimy Bin JUSOH
④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関		1	13	11		25	
協力機関・協力研究者						0	
合計	0	1	13	11	0	25	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考： 日本側研究交流経費 ¥4,671,096			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること							
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	該当なし					
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×	該当なし					
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×	該当なし					
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×	該当なし					
(5)相手国側研究者の研究経費	×	該当なし					
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×	該当なし					
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計		0			

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※コーディネーターの役割：

マラ工科大学における衛星プロジェクトの責任者として、外部機関との調整、プロジェクト予算の管理、人員配置を行っている。日本との間の連絡調整役を行い、バングラデシュで開催されたBIRDSワークショップにもマレーシアの代表として参加している。

5. 交流相手国

事業の型 B 型	
①相手国名(和文)	ブータン
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: 情報通信省 英文: Ministry of Information & Communication	
③コーディネーター所属 部署・職名・氏名 (英文)	Department of Information Technology & Telecom・Director・Jigme Thinlye NAMGYAL
④協力機関名(和文および英文)(行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: 科学技術大学 英文: College of Science & Technology	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	1	2	10			13	
協力機関・協力研究者	8	2	3			13	
合計	9	4	13	0	0	26	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)						※参考: 日本側研究交流経費 ¥4,671,096	
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例: 2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)		
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること								
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	該当なし						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×	該当なし						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×	該当なし						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×	該当なし						
(5)相手国側研究者の研究経費	×	該当なし						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×	該当なし						
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計	0					

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 B 型	
①相手国名(和文)	台湾
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: 国立成功大学 英文: National Cheng Kung University	
③コーディネーター所属 部署局・職名・氏名 (英文)	Department of Electrical Engineering・Professor, JUANG・Jyh-Ching
⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	1			9		10	
協力機関・協力研究者						0	
合計	1	0	0	9	0	10	
⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名(専門分野)		研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)			※参考: 日本側研究交流経費 ¥4,671,096		
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例: 2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	該当なし					
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×	該当なし					
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×	該当なし					
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×	該当なし					
(5)相手国側研究者の研究経費	×	該当なし					
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×	該当なし					
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計		0			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二中間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 B 型	
①相手国名(和文)	タイ
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: キングモクト工科大学北バンコク校 英文: King Mongkut's University of Technology North Bangkok	
③コーディネーター所属 部署・職名・氏名 (英文)	Department of Mechanical & Aerospace Engineering・Lecturer・Phongsatorn SAISUDJARIT
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関		1	3	7		11	
協力機関・協力研究者						0	
合計	0	1	3	7	0	11	
⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名(専門分野)		研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥4,671,096			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位:千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート(外貨1単位に 相当する円貨額)
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること							
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	該当なし					
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×	該当なし					
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×	該当なし					
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×	該当なし					
(5)相手国側研究者の研究経費	×	該当なし					
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×	該当なし					
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計		0			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 B 型	
①相手国名(和文)	ガーナ
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: オールネーションズ大学 英文: All Nations University	
③コーディネーター所属 属部局・職名・氏名 (英文)	Head Quarter・President・Samuel H. DONKOR
④協力機関名(和文および英文)(行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: オールネーションズ国際開発エージェンシー 英文: All Nations International Development Agency	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	10		17			27	
協力機関・協力研究者	3					3	
合計	13	0	17	0	0	30	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		※参考: 日本側研究交流経費 ¥4,671,096			
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例: 2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること							
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	該当なし					
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×	該当なし					
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×	該当なし					
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×	該当なし					
(5)相手国側研究者の研究経費	×	該当なし					
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×	該当なし					
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計		0			

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二重間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSCRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 B 型	
①相手国名 (和文)	バングラデシュ
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：ブラック大学 英文：BRAC University	
③コーディネーター所属 局・職名・氏名 (英文)	School Engineering and Computer Science, Research Associate, Abdulla Hil KAFI
④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	3	7	4	19		33	
協力機関・協力研究者						0	
合計	3	7	4	19	0	33	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：-	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)						※参考： 日本側研究交流経費 ¥4,671,096	
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)		
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること								
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	該当なし						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×	該当なし						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×	該当なし						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×	該当なし						
(5)相手国側研究者の研究経費	×	該当なし						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	○	ブラック大学	3,600	2020/2/1	タカ	1		
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計	3,600					

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※コーディネーターの役割：BRAC大学の衛星プロジェクトの責任者として、外部機関との調整、プロジェクト予算の管理、人員配置を行っている。日本との間の連絡調整役を行い、バングラデシュで開催されたBIRDSワークショップの現地側の責任者として、バングラデシュ内の関係諸機関との調整、プログラム作成、ロジスティクス手配、等々の業務をテレコンなどを通じて日本と調整しながら行った。

5. 交流相手国

事業の型 B 型	
①相手国名(和文)	モンゴル
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: モンゴル国立大学 英文: National University of Mongolia	
③コーディネーター所属 属部局・職名・氏名 (英文)	Nano Satellite Development Laboratory・Research Staff・DASHDONDOG Erdenebaatar
④協力機関名(和文および英文)(行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: ホービッド大学 英文: Khovd University	
和文: モンゴル防衛大学 英文: Defense University of Mongolia	
和文: ヒューマニティ大学 英文: Humanity University	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	6	1	6	9		22	
協力機関・協力研究者	4		2			6	
合計	10	1	8	9	0	28	
⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名(専門分野)			研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)				
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
該当なし							

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)						※参考: 日本側研究交流経費	
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位:千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)	¥4,671,096	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること								
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	該当なし						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×	該当なし						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×	該当なし						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×	該当なし						
(5)相手国側研究者の研究経費	×	該当なし						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×	該当なし						
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計		0				

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 B 型	
①相手国名(和文)	ナイジェリア
②拠点機関名(和文および英文)	
和文: 連邦工科大学アクレ校 英文: Federal University of Technology, Akure	
③コーディネーター所属 部署局・職名・氏名 (英文)	Center for Space Research and Application・Director・AKINYEDE, Joseph Olusola
④協力機関名(和文および英文)(行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: 国家宇宙研究開発機関 英文: National Space Research and Development Agency	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者(内数)
拠点機関	1		17			18	
協力機関・協力研究者			2			2	
合計	1	0	19	0	0	20	

⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)			
所属・職名(専門分野)	研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)		
該当なし			
⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)					※参考: 日本側研究交流経費 ¥4,671,096	
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例: 2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート(外貨1単位に相当する円貨額)	
A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること								
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	該当なし						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×	該当なし						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×	該当なし						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×	該当なし						
(5)相手国側研究者の研究経費	×	該当なし						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×	該当なし						
(7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計		0				

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二重間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。



5. 交流相手国

事業の型 B 型	
①相手国名 (和文)	エチオピア
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文: バヒルダール大学 英文: Bahir Dar University	
③コーディネーター所属 所属局・職名・氏名 (英文)	Head Quarter・President・Baylie DAMTIE
④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	2		9			11	
協力機関・協力研究者						0	
合計	2	0	9	0	0	11	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)						※参考: 日本側研究交流経費 ¥4,671,096	
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)		
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること								
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	該当なし						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×	該当なし						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×	該当なし						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×	該当なし						
(5)相手国側研究者の研究経費	×	該当なし						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×	該当なし						
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計	0					

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 B 型	
①相手国名 (和文)	ネパール
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文: ネパール科学技術アカデミー 英文: Nepal Academy of Science and Technology	
③コーディネーター所属 属部局・職名・氏名 (英文)	Office of the Vice Chancellor・Vice Chancellor・Sunil Babu SHRESTHA
④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級 以上	助教・准教授等	ポスドク等若手 研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	1	3	4			8	
協力機関・協力研究者						0	
合計	1	3	4	0	0	8	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: -	⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)						※参考: 日本側研究交流経費 ¥4,671,096	
	支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位: 千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1単位に 相当する円貨額)		
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること								
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	該当なし						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×	該当なし						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×	該当なし						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×	該当なし						
(5)相手国側研究者の研究経費	×	該当なし						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×	該当なし						
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計	0					

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

事業の型 B 型	
①相手国名 (和文)	スリランカ
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：アーサー C. クラーク近代技術研究所 英文：Arthur C Clarke Institute for Modern Technologies (ACCIMT)	
③コーディネーター所属 属部局・職名・氏名 (英文)	Technical Operation・Deputy Director General・Kamani EDIRIWEERA
④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	4		4			8	
協力機関・協力研究者						0	
合計	4	0	4	0	0	8	

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)	
所属・職名 (専門分野)	研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)
該当なし	

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)			
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	研究交流に不可欠な理由
該当なし			

⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：－		⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)					※参考： 日本側研究交流経費 ¥4,671,096	
		支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2020/9/12)	相手国通貨名	換算レート (外貨1単位に相当する円貨額)	
A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること								
(1)日本側研究者の相手国内滞在費	×	該当なし						
(2)相手国側研究者の国際航空運賃	×	該当なし						
(3)相手国側研究者の日本国内滞在費	×	該当なし						
(4)相手国側研究者の相手国内旅費	×	該当なし						
(5)相手国側研究者の研究経費	×	該当なし						
(6)相手国開催のセミナー開催経費	×	該当なし						
(7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)	×	合計		0				

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。